

第12回「よくわかる第2巻講座」ニュース

2025. 9. 7

第2巻運営委員会

*今日が最終回です。今までのご参加、ご協力、ありがとうございました。

*本日、講義終了後、修了式・会場・zoom 交流会を行ないます。受講感想や日頃思っていることなど、ご自由にお話してください。よろしく願いいたします。

*次期講座は確定していませんが、決まり次第お知らせいたします。また、ご参加ください。

【 特別講座も考えております。(テーマ案)①搾取の真髄を語ろう。—領有法則まで見極めてこそ、社会変革に通ず。—②ジェンダー平等—人類史の経験から学ぶ—③「物象化論」のまやかしを斬る—この用語に“振り回される”な—など。他のテーマ案を出してください。】

—前回講義より—

ワンポイント

① A・サイニー『家父長制の起源』(集英社)より

20世紀社会主義は人類史上初の、家父長制克服・ジェンダー平等実現への巨大な進歩。社会と人間の、一大改造実験であった。生産関係／生産力の変革で、家事(炊事・清掃・育児)の社会化高率化がその土台であった。しかし、著者は、「ジェンダー平等がうまくいかなかったのは、…人間は習慣や信念に固執する。平等の追求は、資本主義との闘いだけでなく、過去との闘い。家父長制は資本主義より古いのだ。」「家父長的な権力による悪影響を正そうとするなら、…互いを思いやる人間らしい心をはぐくむしか道はない。」と書く。このような、経済的土台・搾取を否定する結論は唯物史観からは導き出され得ない。

② 衆・参選挙、日本共産党 敗北の原因は？

選挙最終盤、SNS で「大企業を敵視せず。未来社会へのパートナーです。」(大門実紀史)・「政権をとったら共産主義になるのか？一否。」(田村智子)が流された。これでは、「旧ソ連共産主義」への批判が表に出て、めざす未来社会像を示せず、党の存在意義を自ら打ち消す。反転攻勢の展望を語れず、支持者に深い失望を与えてしまった。この点が問われる。

第20章 単純再生産

■基本中の基本、市場全体でのまとめ。三大取引は、①Ⅱ部門 $v+m$ (部門内取引)、②Ⅰ部門 c (部門内取引)、③ $Iv+m=IIc$ (摩滅分)(部門間取引)

・単純再生産の均衡比例条件は、うえの③が成り立つこと。資本主義的生産では、均衡は、偶然であり、均衡が破れ、過剰生産恐慌の可能性へと急変する。

・スミスのドグマは、独断的であるが、教義。教え、人を動かす部分がある。それを真正面から受け止め、マルクスは完ぺきに批判した。

・ドグマを乗り越えたことにより、資本主義経済の新しい認識がどのように開けたか？

第10節「資本と収入」、第11節「固定資本の補填」、第21章「貨幣蓄積による拡大再生産への転換(全面的新しい境地)」

■第6節～第9節は、10年前の第2草稿。マルクスの理論的未熟部分の残滓がある。

■第10節(重要) 資本と収入。可変資本と労賃。古典派の根深い考え方を克服し、マルクス自身の積極説を押し出し、最終決着。「ドグマ」の批判を完了する。

・決まり文句「一方にとって資本であるものが、他方にとっては収入である。」→

第1命題: «可変資本は資本家の手中では資本として機能し、労働者の手中では収入として機能する(従来の見解)»は、正しくは→二つの機能を果たすのは可変資本ではなく貨幣である。($G-W(A)-G-W$)

第2命題: «部門間取引では、一方にとって不変資本であるもの(2000Ⅱc)が、他方にとっては収入 I ($1000v+1000m$)となり、また一方にとって収入であるものが、他方にとっては不変資本になる。»→可変資本は3つの転化をする。 $G-A\cdots P\cdots W'-G'$ 。資本家は手中に常にvを持っているゆえに、vが誰かの収入になるとは言えない。労働者の手中での貨幣の転換は、労働力価値の転換である、($W(A)-G-W$)。これも誰か他人の資本になるとは言えない。

→しかし、収入としての労賃の支出によって、貨幣資本として復元される部分があることは、年生産物の転換における、重要な事実である。

第11節 固定資本の補填

・1年以上の寿命を持つ固定資本は、「まだ現物補填まで寿命があり、減価償却基金として貨幣が積み込まれる」部分と、「今や寿命が来て現物での補填がなされる」

部分とがある。この二つがうまくつりあうことが、再生産の均衡条件である。しかし資本主義的生産では、現実には、均衡は偶然であり、均衡がくずれた場合、単純再生産でも過剰生産恐慌が生じる。これは今までなかったまったく新しいマルクスの知見である。→社会による生産の統制(計画経済)の必要。

*古典派には貨幣機能に蓄蔵貨幣の認識がなく、固定資本の摩滅の補填について説明することができなかった。

第12節 貨幣材料の再生産

貨幣が生み出されるのは流通。流通に必要なだけの量の貨幣が、蓄蔵貨幣(貨幣の貯水池)から供給され、流通の弛緩の波を調整する。しかし、ここでいうのは貨幣ではなく、貨幣材料のこと。だから金鉱山を掘り、補填する。

◎[資本家は投入するよりも多くの貨幣をどうして流通から引き出すことができるか?]

(1)問題は、mの貨幣化ではなく、総商品価値の貨幣化である。困惑の源:①資本だけに注目すると m の貨幣支出が見えない。②m に対していつも等価が支払われるように見える。

(2) 貨幣の投入・引き出し次期のずれ。(固定資本の循環運動、長い建設期間など)

(3) 金生産によって、より多くの貨幣を投じて、商品だけが引きあげられる。 以上